



家庭から宇宙まで、エコチェンジ。



風の動きが見えれば、風はもっと使いこなせる。

今までの風速計では装置のある一点でしか測定できなかった風の状態。  
これからはレーザーで「見る」ことで広範囲の動きを立体的に捉えることが可能に。  
風を知り、風を活かすための技術を、三菱電機が生み出しました。

レーザーを空間に発射し、大気中を漂う微粒子(エアロゾル)からの反射を受信・計測。その移動速度や方向を割り出して風の動きを  
「見る」技術を三菱電機が実現しました。レーザーを使うことで、今までには難しかった広い範囲のリアルタイムでの計測が可能に。  
風力発電分野では、発電設備の建設場所の選定から風車の最適な制御、突風の到来を検知するなど幅広い活用が期待されています。  
また、ゴルフやヨットレースなどでは「風を読む」強い味方に。他にも、空港での乱気流検出で空の安全を見守ったり、都市の大気の  
流れを可視化することで、ヒートアイランド現象の計測や、ビルや橋への強風を監視する防災センサーとしても応用が可能です。



### 三菱電機の 風計測ライダ技術

○この広告について問い合わせは、adv.webmaster@r1.MitsubishiElectric.co.jpまたはFAX:03-3218-2321(直伝番号)